



日野市立カワセミハウスは旧環境情報センターの機能と地区センター機能を融合して平成29年4月1日に誕生しました。このカワセミハウス通信は日野市の環境に関する情報に加え、カワセミハウスで行われる活動や開催予定の行事・イベントなどの情報を発信していきます。

日野市環境フェア～10th Anniversary～開催！多くの市民で賑わいました

2018年2月17日（土）ひの煉瓦ホール（市民会館）大ホールにて日野市環境フェア～10th Anniversary～が開催されました。今回の環境フェアは「ふだん着でCO2をへらそう事業」が今年で10年目を迎える節目であることから従来のイベント内容に加え、これまでの事業の振り返りを行いながらその事業効果等についても広く来場者へ周知しました。

環境フェア第1部では、省エネの取り組みについて平山小学校のエコ集会や環境かるた大会の優勝者から発表がありました。また、エコアラ・エコクマによる省エネ啓発ショーでは地球温暖化防止の大切さを来場者へ伝えました。続いてLED電球やマイ水筒、自転車などの環境グッズが350名以上に当たる大抽選会も行われ、場内は大いに盛り上がりました。子どもたちへは、市内で採取したカブトムシの幼虫150匹が配布され、生きものを大切にすることが地球環境を守ることにつながる事を知ってもらう機会としました。

第2部では、小学生に好評の日野市環境かるたに関するクイズ大会を行い、約100名が上位入賞を狙い大接戦を繰り広げていました。クイズ参加者は日ごろから環境かるたに親しんでいる小学生が多く、標語や絵柄をよく覚えている子どもたちの姿が印象的でした。

展示室では、エコアラ・エコクマの缶バッジ作成体験やふだん着事業10年を振り返るパネル展、省エネに関するアンケート等も行いました。

今後も引き続きふだん着事業を通して、“青い地球をいつまでも” 次の世代へ引き継ぐことができるよう地球温暖化防止の普及啓発活動を行って参ります。



式典の様子



平山小学校エコ委員会による発表

日野市の生物多様性シンポジウム「ひの生きものプラン」が開催されました

私たちが暮らす日野市は、市の北側を多摩川、市内の中央部を浅川が流れ、市内全域には用水路が広がるほか、湧水地点も多数点在するなど「水の郷」と呼ぶにふさわしい環境にあります。また、多摩丘陵や日野台地の崖線などには自然度の高い緑が存在するなど豊かな生態系が維持されています。

かつては、人はこうした身近な自然環境の中で生物多様性の恵みを得て、そこに暮らす生きものと共生しながら暮らしてきました。このような中、幸いにも日野市では地域を愛する市民の地道な環境保全活動と、日野市による多年にわたる環境施策の積み重ねによって、都市部で失われつつある身近な自然環境や生物多様性がなんとか守られてきました。

これらの背景をふまえて、これまで市が誇りとしてきた“みどりと清流のまち ひの”を次世代へ良好な状態で引き継ぐため、2015年度から策定委員会を設け市民・事業者の方と共に3か年をかけて検討を重ね、このたび「ひの生きものプラン～日野市生物多様性地域戦略～」が完成いたしました。

この「ひの生きものプラン」を広く市民の皆さんに知っていただくため、2018年3月17日（土）午後、カワセミハウスを会場として日野市の生物多様性シンポジウム「ひの生きものプランとこれからの活動」が開催されました。当日は午前中に自然観察会やビデオ上映「ひのいきもの」が行われ、シンポジウムには市民約150人が参加、元多摩動物公園園長 矢島稔氏による基調講演「モンシロチョウをもう見ましたか?」、東京農工大学名誉教授 亀山章氏による「日野市の生物多様性について」の講演、ひの生きものプランで取り組む市民活動の紹介など盛りだくさんの内容でした。

「ひの生きものプラン」は、これまでの日野市の取り組みの成果を総括するとともに、“みどりと清流のまち ひの”を持続可能なまちづくりの根幹とし、日野市の目指すべき姿とそれを実現するための様々な生きものの視点に立った具体的な取り組みを示しています。

この戦略を通じて、私たち一人ひとりができることを考え、そして行動することで、先人から引き継いだ大切な身近な自然環境や多様な生物を次の世代へしっかりと伝え、日野市らしいまちづくりを目指し、運用していくものとしています。



ひの生きものプラン報告書

カワセミハウスアートディレクション事業

創作絵本『ぼくのまちにはもりがある』発刊発表会が開催されました

2018年3月3日（土）カワセミハウスで、創作絵本『ぼくのまちにはもりがある』の発刊発表会が開催されました。この絵本は、カワセミハウスのアートディレクション事業として、今年度、日野市出身の版画家 蟹江杏さんと公募で参加した市内の9名の中学生たちが7回のワークショップを重ね発刊したものです。

当日は絵本制作に携わった中学生や父兄、中学校の先生、市民など60名ほどが参加、作者である蟹江杏さんと中学生たちの絵本創作にまつわるお話しをはじめ、映像による作成過程の振り返り、落語家の武蔵野亭巾着こと手塚さんによる絵本の朗読、蟹江杏さん・絵本編集者・地域協働課長・市立図書館の司書による座談会などバラエティに富んだ内容で絵本の紹介を行いました。最後に大坪市長から「アーティストと中学生が協働して素晴らしい絵本ができ感動しています。このような事業は全国でも希です。取り組みを完遂された蟹江杏さん、生徒の皆さんに感謝します。」との講評があり、閉会となりました。中学生たちは、1年間の活動を通して悩んだことや苦労したこともあったようでしたが、それ以上にプロのアーティストである蟹江杏さんと一緒に楽しく絵本をつくるという貴重な経験により得るものが大きかったようです。できあがった絵本を心の糧として、さらに豊かな個性を輝かせてほしいと願っています。



この絵が絵本の表紙です



杏さんのお話

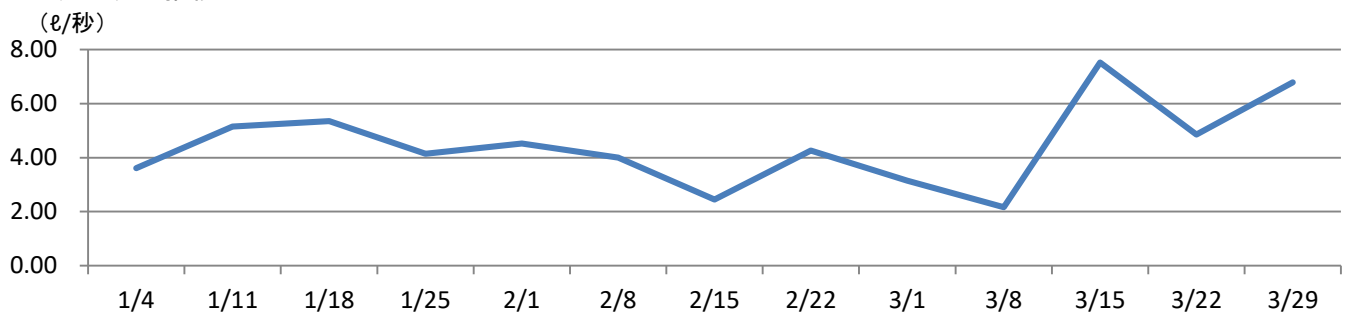


杏さんを囲んで座談会

黒川清流公園の水路での湧水量測定結果(1月~3月)と1年間の月間推定流量のまとめ

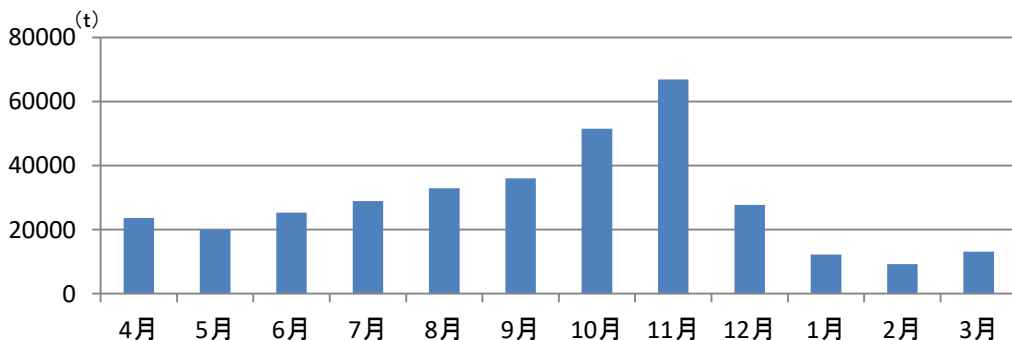
カワセミハウスでは2017年4月から毎週木曜日の朝、黒川清流公園あずまや池出口の水路で湧水量測定を実施しています。水路幅、水深、流速を測定し、これらのデータをもとに、1秒当たりの流量を算出します。また水温や電気伝導率も測定、湧水量に大きな影響を与える降水量についても、前回測定日から今回測定日前日までの7日間の八王子地区降水量 (mm) を参考にしています。

<1月~3月の流量推移>



<2017年4月から2018年3月の毎月の1回当たりの平均流量、月間推定流量、月間降水量>

測定月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均流量 (l/秒)	9.1	7.4	9.8	10.8	12.3	13.9	19.3	25.8	10.4	4.6	3.8	4.9
月間推定流量 (t)	23,640	19,928	25,296	28,884	32,955	36,039	51,570	66,900	27,721	12,227	9,217	13,119
月間降水量 (mm)	113	70	97	125	176	158	559	110	14	38	12	210



黒川清流公園清流広場

*10月と11月は台風による大雨の影響で月間推定流量が大幅に増えています。

平成29年度「エコキング冬」の調査結果がまとまりました

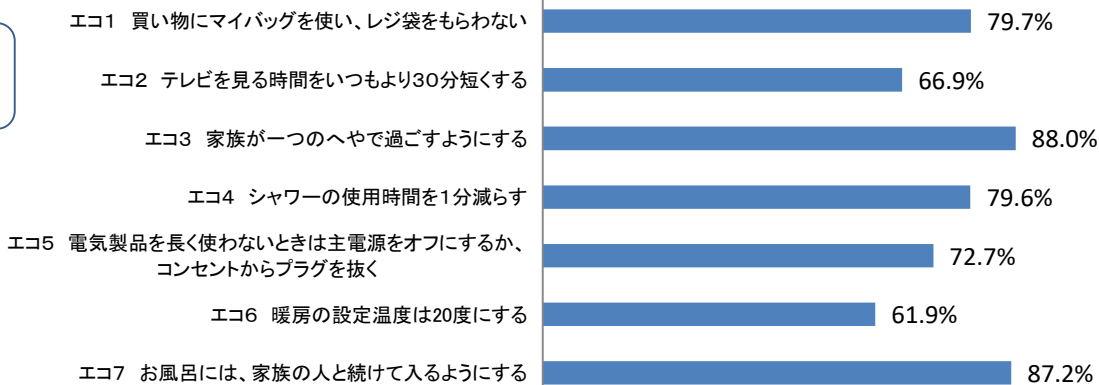
日野市環境基本計画推進会議CO2グループ主催による平成29年度「エコキング冬」の調査結果がまとまりました。「エコキング」とは、市内の全小学校にご協力いただき、小学生のいる家庭の夏と冬の“ある1日”のエコ活動を通して、CO2がどれくらい削減されるかを調査するものです。

今回の調査は昨年12月9日（土）の1日間のエコ活動について調べました。市内の小学生の78%にあたる7,202人が参加、下記の7つのエコ活動の家庭での実施状況を聞きました。調査の集計結果をみると、全小学校計でエコ活動の実施率が最も高かったのは、エコ3「家族が一つのへやで過ごすようにする」で88.0%、エコ7「お風呂には、家族の人と続けて入るようにする」が87.2%で続きます。最も低かったのはエコ6「暖房の設定温度は20度にする」で61.9%でした。まだ暖房を使っていない家庭も多かったようです。

7つのエコ活動の実施者数にそれぞれの活動で削減されるCO2の量をかけて算出した12月9日の1日間で削減されたCO2の総量の推計は全小学校計で2,731kg、テニスコート約10.9面分※の森林が1年間に吸収するCO2の量に相当します。もし12月9日のエコ活動を1年間365日続けるとすると、テニスコート約3,988面分の森林が1年間に吸収するCO2が削減されることとなります。日々の生活の中での小さなエコ活動の積み重ねがCO2の削減に大きな効果があり、ひいては地球温暖化の防止にもつながります。

※テニスコート1面（約500㎡）当たりの森林が1年間に吸収するCO2の量250kgで換算

平成29年度「エコキング冬」
7つのエコ活動実施率
—全小学校計—



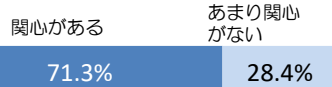
市内小学生の保護者の方々を対象とした

CO2グループ主催「地球温暖化対策に関するアンケート」結果の報告です

今回の平成29年度「エコキング冬」アンケートでは、同時に保護者の方々を対象とした「地球温暖化対策に関するアンケート」も実施し、日本や世界各国で行われている地球温暖化対策についての関心度合をお聞きしました。

アンケートに答えていただいた方は全体で5,162人。内訳は女性が4,456人（30代以下1,716人、40代以上2,740人）、男性706人でした。下記のグラフは全体の回答を集計した結果です。

①日本は“水素社会”の実現に向けた取り組みを進めています。CO2排出ゼロのクリーンエネルギーである水素を燃料としたFCV（燃料電池自動車）の普及に向けて、商用水素ステーションを2025年までに全国で320か所程度整備することを目指しています。



②イギリス・フランス・カナダの各国は大量のCO2を排出する石炭火力発電所を2025年から2030年に廃止すると発表しました。



③イギリスやフランスは2040年までにガソリン車やディーゼル車の販売を禁止しEV（電気自動車）化を推進する計画です。アメリカのカリフォルニア州や中国も積極的に動いています。



④日本では低炭素社会の実現のため、平成24年から化石燃料の利用に対しCO2排出量に課税する「地球温暖化対策税」が導入され昨年4月に最終税率への引き上げが完了しました。この税収を使ってCO2排出量削減の施策を行います。ヨーロッパはより積極的で、その税額が日本の約10倍というケースもあります。



⑤環境先進国デンマークはオイルショックを機に積極的に風力発電導入を進め、2014年には総発電量に占める風力発電比率が39.1%で世界一になりました。



⑥日本では地球温暖化対策として、CO2の削減につながる森林整備や森林保全の支援を目的とした「森林環境税（仮称）」導入の検討を進めています。早ければ2018年には税額や導入時期などを定める方針です。



* 回答なしがあるため100%になりません

全体の集計結果をみると、それぞれの温暖化対策について「関心がある」の比率はほぼ70%を超えました。6項目の対策の中では、⑥日本の「森林環境税（仮称）」導入の検討が85.2%、③イギリスやフランスのEV（電気自動車）化推進計画が79.4%と特にながっていています。一方、②欧米での石炭火力発電所廃止、①日本の“水素社会”実現への取り組み、⑤デンマークの風力発電比率世界一といった対策はいずれも70%前後の関心度合で6項目の中ではやや低くなりました。「森林税」や「EV化」といった身近に実感できる対策への関心度が高かったようです。

■2018年1月～3月の活動報告

1月20日（土）環境学習会「水をテーマにしたお話し」開催

10：00～12：00 カワセミハウスで開催。講師は中島事務局長、参加者は10名でした。テーマは、「水」の持つ不思議な性質や「水の惑星」と呼ばれる地球に存在する水の量など「地球と水の関係について」「水循環」など、また身近なテーマとして「日野市の水道の歴史」という話にも触れ「次の世代に何を残すのか」を考えました。

1月27日（土）みんなの環境セミナー「今が旬！冬芽の観察会」開催

10：00～14：30 開催。講師は元信州大学農学部助教授馬場多久男氏です。午前中はカワセミハウスで冬芽に関する講義、午後は黒川清流公園で冬芽の観察をしました。参加者は23名、女性の多さが目立ちました。参加者からは「冬芽は目立たないが、とても個性がある部分と知り面白かった」「とても詳しく冬芽の観察法を教えてもらった」などの感想が寄せられました。

1月28日（日）みんなの環境セミナー「親子で楽しむ野鳥かんさつ」開催

9：30～12：00 開催。講師は日野の自然を守る会金子凱彦氏と小久保雅之氏、カワセミハウス村岡です。参加者は個人と親子5組で14名、カワセミハウスに集合し野鳥観察のレクチャーを受け野鳥写真展を見たあと、雪の残る黒川清流公園で野鳥を観察しました。「たくさんの野鳥が見られて楽しかった」という声が聞かれました。

1月23日（火）～30日（火）カワセミハウス写真展「日野の野鳥たち」開催

1月28日に開催された環境セミナー「親子で楽しむ野鳥かんさつ」と連動した形で、日野市で見られる野鳥たちを、森や林、水辺、草原や畑、街の中の4つの場所で分類し、48枚の写真で紹介しました。セミナーに参加した親子たちも野鳥観察に向かう前に熱心に見ていました。

2月20日（火）～25日（日）2016年度日野市環境白書発表パネル展 開催

カワセミハウス情報発信ラウンジで開催。環境白書の主な指標を紹介するパネル展で「みどり」「水」「ごみ」「地球温暖化」「生活環境」の各分野ごとの現状や取り組みを紹介、また市民の関心が高いと思われる10の環境指標について解説しました。

2018年4月～7月前半の行事・イベント予定

5月10日（木）第10期市民環境大学開校式

前期（5～7月）後期（10～12月）全20回の講義が始まります。地球規模から身近な事象まで地球環境を楽しく学びます。

5月19日（土）第14期日野市雑木林ボランティア講座開講式

来年3月まで全11回の講座が始まります。雑木林の現状や道具の使い方の実習など通して雑木林の保全について学びます。

6月3日（日）みんなの環境セミナー「駅のツバメ」

日野の自然を守る会の金子凱彦氏を講師に迎え、豊田駅周辺で巣作りをしているツバメの観察を通して街で暮らすツバメの生態を探ります。先着15名。5月15日発行の広報「ひの」でお知らせします。

6月30日（土）カワセミハウス協議会主催 オオブタクサ引き抜き大会

カワセミハウス裏に繁茂する外来植物オオブタクサの引き抜き大作戦です。市民の方々の参加歓迎！

7月5日（木）みんなの環境セミナー「黒川清流公園の夏を探そう！」（市民環境大学公開講座）

初夏の黒川清流公園で湧水や雑木林の草花などを観察し、豊富な湧水の成り立ちや雑木林の大切さを楽しく学びます。先着20名。6月15日発行の広報「ひの」でお知らせします。

★「黒川マイスター」講座 受講生募集！★

日野市の宝である黒川清流公園の魅力を伝え、その自然環境の保全を担っていただく市民リーダーを育成する「黒川マイスター」講座がスタートします。5月～来年3月まで月1回開催です。定員は先着10名、費用は2,000円（材料費など）、会場はカワセミハウス、申込みはカワセミハウス下記住所・FAXまでがきまたはFAXでお願いします。申込み締め切りは4月30日（月）です。

講座内容など詳しくは4月1日発行の広報「ひの」、カワセミハウスホームページをご覧ください

《カワセミハウス施設概要》

開館時間：9：00～21：30

休館日：毎週月曜日、年末年始（月曜日が祝日の場合はその翌日）

情報発信ラウンジ：環境・地域のコミュニティの場や、散策時の休憩所としてご利用できるフリースペース

オープンキッチン：IHキッチンヒーターやオープンレンジを常備

集会室：会議等で利用できる集会室3室（各室約30名収容）

可動式パーテーションを取り払い大きな部屋として使用可能
その他、授乳室、芝生広場もあります。

カワセミハウスは地域のコミュニティの場として集会室や情報発信ラウンジ等をご活用いただくことができます。

申請方法：使用日の属する月の3か月前の1日（各月最初の開館日）から使用当日までにハウス窓口で使用申請書を提出

*電話での仮予約も可能ですが仮予約後7日以内に窓口申請が必要です。

使用料：集会室1・2・3とも

午前（09：00～12：00） 300円

午後（13：00～17：00） 400円

夜間（18：00～21：30） 350円

全日（09：00～21：30） 1,050円

*集会室は1室ごとの料金です。

*環境市民団体や自治会等は使用料が減免になる場合があります。詳しくはお問い合わせください。

*集会室以外は無料で利用できます。

発行 日野市立 カワセミハウス

〒191-0052 東京都日野市東豊田3-26-1

Tel/fax: 042-581-1164

Eメール: kawasemihouse@jcom.zaq.ne.jp